

平成29年度ふぐ処理師試験問題（ふぐの種類及びふぐ毒に関する知識）

※受験番号を記入してください。

※解答は解答欄に記入してください。

受験番号	
得点	

問1

次の記述にあてはまるふぐの名称を下記の語群から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 地方名：キタマクラ・サノミフグ・オテラ・オヤマ
 毒性：無毒＝筋肉・皮・精巢
 特徴：背面・腹面に小棘(トゲ)がある。すべてのひれは鮮やかな黄色。特徴的な太い縞があるが中には縞がとぎれて白点状になったものがある。
- (イ) 地方名：サバフグ・サワフグ・サメフグ
 毒性：無毒＝筋肉・精巢
 有毒＝皮
 特徴：背面・腹面に小棘(トゲ)がある。背面と体面に藍青色の小点が密布しており、臀びれはレモン色である。
- (ウ) 地方名：ナメラ(フグ)・ナメタ(フグ)・ナゴヤ(フグ)・メアカ
 毒性：無毒＝筋肉・精巢
 有毒＝皮
 特徴：体に小棘(トゲ)はなく、臀びれは黄色。体色・斑紋は成長と共に著しく変化し、成魚型と幼魚型があるが、幼魚型のままで成熟しているものもある。
- (エ) 地方名：アカメ(フグ)・コウヨシ・ナゴヤ・モフグ
 毒性：無毒＝筋肉(ただし、三陸沿岸産は有毒)
 有毒＝皮・精巢
 特徴：皮膚に小さいイボ状の突起が密布し、胸びれ後方上部の黒斑はない。背面、体側の黒褐色小斑点の大きさや数は個体によって異なる。アカメ・アカメフグと呼ぶところが多い。
- (オ) 地方名：トラ・シロ・ホンフグ・モンフグ・オオフグ
 毒性：無毒＝筋肉・皮・精巢
 特徴：80cm以上に達する大型種。背面・腹面に小棘(トゲ)がある。胸びれ後方上部に黒紋があり、周りは白い。臀びれは白色か紅色で、背面の色彩・斑紋はすみ場所・大きさにより異なる。

問1	解答欄
ア	⑥
イ	②
ウ	③
エ	⑤
オ	①

①トラフグ ②ゴマフグ ③マフグ ④ハコフグ ⑤ヒガンフグ ⑥シマフグ

※解答は解答欄に記入してください。

得点	
----	--

問2

次の(ア)～(オ)は、ふぐ毒(テトロドトキシン)の性質と特徴に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア)熱に強く、加熱しても容易に分解されない。
- (イ)アルカリに対して比較的弱く、炭酸ソーダや重曹などの弱アルカリ性のもので容易に破壊される。
- (ウ)テトロドトキシンを有する動物や、下等動物の軟体動物、環形動物、棘皮動物には毒作用がないことがわかっている。
- (エ)神経毒の一種で、その強さは青酸カリの約10倍とも言われている。
- (オ)紫外線に弱いので、直射日光に当てておくと毒性が消失する。

問2 解答欄

ア	○
イ	×
ウ	○
エ	×
オ	×

問3

次の(ア)～(オ)は、ふぐの生体・毒性に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア)有毒魚種の肝臓や卵巣でも、毒性には個体差があり、無毒の事もある。
- (イ)ふぐの精巣(しらこ)は特に毒性が強く、最も危険な臓器とされている。
- (ウ)未成熟なふぐの卵巣(まこ)は、精巣(しらこ)に比べ、柔軟で断面は空洞になっている。
- (エ)皮に毒を有するふぐも、そのひれや口ばしは無毒であり、食用にしても問題はない。
- (オ)多くのふぐの血液は有毒であり、調理の際には十分水洗いを行う必要がある。

問3 解答欄

ア	○
イ	×
ウ	○
エ	×
オ	×

問4

次の記述は、ふぐ毒による中毒症状について述べたものです。()の中に下記の語群から適当な語句を選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

福田得志は138名の中毒患者の臨床症状を分析し、経過に従って症状を次の4段階に分けている。

- 第1度 口・舌・唇のしびれなどの(ア)、時に嘔吐する。
 - 第2度 皮膚感覚・味覚等の知覚鈍麻、手指・上下肢の(イ)、体温(ウ)
 - 第3度 血圧下降、尿量減少、骨格筋の弛緩、運動は全く不能、発生不能、嚥下困難、呼吸困難、意識はなお明瞭
 - 第4度 意識不明、血圧著しく下降、(エ)、死。
(エ)後もなお暫くは心拍動は続く。
- 以上は早いもので(オ)足らずで、遅くとも2～3時間内で発症する。8時間まで生存し得たものは概ね回復する。

問4 解答欄

ア	③
イ	②
ウ	⑥
エ	④
オ	⑧

①下痢 ②運動麻痺 ③知覚麻痺 ④呼吸運動停止 ⑤上昇 ⑥下降 ⑦30秒 ⑧30分
--